

災害

からわが身を守る

土砂災害・洪水に

備えよう

コンを使って災害発生時の危険度の高まりを地図上で確認できます。左の二次元コードからご利用ください。

また、市では、災害の危険が迫った時に避難指示などの避難情報を発令して避難を呼び掛けます。

▼避難情報の伝達手段

②気象・避難情報などの収集

- ・緊急速報メール
- ・桐生ふれあいメール
- ・防災アプリ(HAZARDON)
- ・防災ラジオ
- ・防災行政無線
- ・広報車
- ・レアラート(テレビのデータ放送など)
- ・市ホームページ
- ・自治組織
- ・自主防災組織

今年も全国各地で豪雨が頻発しています。突発的に起こる地震と違い、大雨による洪水や土砂災害は、天気予報や気象庁からの情報、また、ハザードマップなどを確認することにより、個人でもある程度危険性を予測できます。

そのため、一人一人の日頃の備えや情報収集、適切な避難行動により、大幅に人的被害を軽減できる可能性があります。

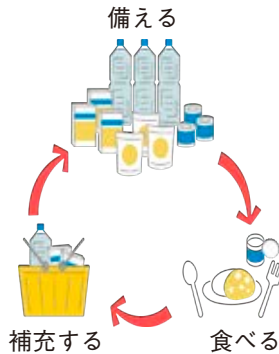
災害に備え、適切な知識を持ち、自分の命は自分で守ることを心掛けましょう。

防災・危機管理課防災・危機管理担当(☎461151)

①家庭内備蓄品の準備

非常持ち出し品は、避難場所までの距離などを考え、持つて避難できるだけの必要最低量にしましょう。市も食料などを備蓄していますが、そ

の数には限りがあり、災害の状況などによっては、避難所にすぐに配布できない場合があります。また、大規模な災害が発生した場合は、食料品や日用品、車の燃料などが品薄状態や売り切れになるおそれがあります。こうした事態に備えるため、日頃から飲料食品は常に3日分程度(可能であれば1週間分程度)を目安として保管するようにしましょう。



同様に、車の燃料も、「少なくなつたからガソリンスタンドへ行く」のではなく、いつ災害が発生してもすぐには困らない程度の残量のうちに給油

▼キキクル(スマホ表示画面)



▼キキクル二次元コード



洪水

浸水

土砂

③地域の危険箇所や避難所、避難経路の確認

自分が住んでいる地域の危険箇所や避難所、避難経路を実際に歩いて安全に避難が行えるか確認しましょう。土砂災害や洪水で被害に遭わないためには「早めの避難」がとても重要です。

伴うことがあります。そのときは、無理に避難場所まで移動しようとせず、自宅を含めて、崖や沢から少しでも離れた近隣の建物の上階に待避（垂直避難・屋内安全確保）してください。

また、冠水道路をやむを得ず移動する場合には、棒や杖などで足元の安全を確認しましょう。

降雨後の数日間は川や山に近寄らないなど、適切な行動をとることが、災害からわが身を守ることに繋がります。市では避難情報が発令される前であっても、皆さんが危険を感じた場合に、自主的に避難できる体制を左表のとおり整えています。



落石の様子

避難情報発令前でも自主的に避難できる避難場所

- ・昭和公民館
- ・南公民館 ※
- ・東公民館
- ・西公民館 ※
- ・北公民館
- ・境野公民館 ※
- ・桜木公民館 ※
- ・広沢公民館 ※
- ・梅田南小学校体育館 ※
- ・相生公民館 ※
- ・川内長寿センター ※
- ・菱公民館 ※
- ・桜木西公民館 ※
- ・新里支所 ※
- ・黒保根支所 ※

※業務時間外は施設が閉まっているので、自主避難をする際は、防災・危機管理課（☎46-1151）までご連絡をお願いします。

避難行動要支援者名簿への登録を

大きな災害が起こった時に備え、自力で避難することが難しい人を地域で助け合う体制づくりを進めています。不安のある人は、避難行動要支援者名簿への登録を申請してください。

対在宅で自力避難が困難であり、次のいずれかに該当する人

- ①介護保険の認定区分が要介護度3・4・5
- ②身体障害者手帳1級・2級
- ③療育手帳A判定
- ④その他援助が必要な理由がある場合

申登録を希望する人は、地域福祉課（☎44-8239）に相談してください。

※名簿に登録することで優先的に避難支援が受けられるわけではありません。

▼土砂災害の予兆現象

現象	特徴	前ぶれ（予兆現象）
土石流	山腹や川底の石・土砂が時速20～40キロメートルで一気に下流へと押し流され、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させる。	・山鳴りがする ・急に川の水が濁り、流木が混じり始める ・腐った土の匂いがする ・雨が降り続いているのに川の水位が下がる ・立ち木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる
地すべり	斜面の一部または全部がゆっくりと斜面下方に移動する。移動する土塊の量が大きいため、甚大な被害を及ぼす。	・地面がひび割れたり、陥没したりする ・崖や斜面から水が噴き出す ・井戸や沢の水が濁る ・地鳴りや山鳴りがする ・樹木が傾く ・亀裂や段差が発生する
崖崩れ	崩れ始めてから、崩れ落ちるまでの時間がごく短い。人家の近くで起こると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことの多い災害。	・崖にひび割れができる ・小石がパラパラと落ちてくる ・崖から水が湧き出る ・湧水が濁ったり、止まったりする ・地鳴りがする

こんにちは
市長です



日頃から、できる限り
備えておきましょう

7月に市内各所を襲った集中豪雨では、多くの家で浸水被害などが発生し、市民の皆さまの生活に大きな影響をもたらしています。被災された皆さまには改めまして心よりお見舞い申し上げます。

今後も台風シーズンが続きます。もうしばらくの間は、テレビから流れる気象情報や市が発信する防災情報などに十分に注意し、早めの避難行動を心掛けるようにしてください。

熊本では、同じ7月に最大震度7の大地震が発生し、今もなお多くの方々が過酷な避難生活を強いられています。このような大地震はいつどこで起きてもおかしくありません。

皆さまも、家庭での備蓄やいざというときの避難行動の手順の確認など、日頃からできる限りの備えをお願いいたします。

桐生市長 荒木 恵司